

千葉市100人大ワークショップ追加資料

武藏大学社会学部メディア社会学科

粉川一郎



「消費者」としての市民でいいのかな？

- ・ 偉いのは、市民ですか？ それとも政府ですか？
- ・ 近所の公園をボランティアで掃除しました。それは「押し付けられた」ことですか？
- ・ 明日、政府が「やめた」と言ったらどうしますか？
- ・ みなさんは、政府にとっての「消費者」ですか？
- ・ 地域のことを、自分の身の回り半径500mで起こることを、「政府」とやらに任せていよいのですか？
- ・ お任せしようとしている「政府」とやらは、赤字で倒産寸前ですよ。
- ・ 主権者は誰だったか、教科書を思い出しましょう。

国の共助社会づくりの意図は何か

共助社会づくりの推進に向けて～論点の整理と今後の議論の進め方について～
平成25年5月27日 共助社会づくり懇談会 より抜粋

公助について財政上の制約がある中で、地域の課題に対応し活性化を図っていくためには、共助の精神によって、人々が主体的に支え合う活動を促進することで、活力ある社会にしていくことが必要である。

→つまり、もう、行政では公共を支えきれない、というギブアップ宣言

こうした活力と共助の精神にあふれる社会をつくる上で、その担い手は多様化しており、これまで地域社会において重要な意味を持っていた自治会、消防団、商店街等のみならず、現在は特定非営利活動法人、公益法人、企業等様々な主体が参加している。こうした多様な担い手の更なる参加や活動の活発化を促す仕組みを検討していくことは、以下の2点から極めて重要である。

- ①人や組織のつながりがしなやかな強さを持つ安定した社会の構築に寄与すること
- ②地域を活性化するために、新たな市場の創出・拡大、雇用の拡大、寄附文化の醸成に寄与すること

→つまり、NPOや株式会社、地縁組織という区分ではなく、とにかく民間であればなんでもいいそして、民間主導で地域経済の活性化を図ってほしい。

- ・人材面の課題として、恒常的な人材不足に加え、マネジメント人材や専門人材の不足、
- ・資金面の課題として、寄附の拡大を図る上で、新たな仕組みが立ち上がりつつあるが未成熟であること、一部信金等を除き、金融機関からの融資性の資金が供給されにくいこと、
- ・信頼性の向上に関する課題として、資金管理の不透明性に由来する不信感やデータベースの利便性が低いことなどにより、活動情報や財務情報が伝わりにくくこと、

→つまり、ヒト、力、信頼が不足しているから、そこを補う仕組みについては行政も考える

「補完性の原理」は持続可能性の為に

